

(様式第4号)

神科・豊殿地域協議会 会議概要

1	審議会名	第4回 神科・豊殿地域協議会
2	日時	令和2年11月30日(月) 午前・(後)7時00分から午前・(後)8時30分まで
3	会場	豊殿地域自治センター(農村環境改善センター) 多目的ホール
4	委員出席者	青木茂友委員、浅川玲子委員、大久保孝子委員、近藤隆英委員、篠田正行委員、杉崎千代委員、高野亜矢子委員、竹内親吾委員、谷口昌平委員、中村幸博委員、橋詰和政委員、堀田芳子委員、堀善三郎委員、柳澤明德委員、柳澤正敏委員、柳澤幹夫委員、吉池正敏委員、渡邊久子委員、渡辺洋美委員 19人
5	市側出席者	羽毛田センター長、木角係長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和2年12月7日 作成部局課名 上田地域自治センター(豊殿地域自治センター)

協議事項等

- 1 開会(羽毛田センター長)
- 2 あいさつ(中村会長)
- 3 協議事項
 - (1) 「災害時の消防団の活動について」 上田市消防団 12・13分団
・「台風19号に伴う活動」について各分団の副分団長から資料に沿って説明
 - (2) 質疑応答
(委員) 神川沿いにある川原地区は避難をしてもらうために民生委員さんが大変ご苦労されたと聞いているが、どのような状況だったか教えてほしい。
(12分団) 神科地域の全自治会に避難指示が出ていて、川原地区の避難場所は神科小・上野が丘公民館であった。各戸ノックして回るわけにもいかないの、川原地区は広報車両のみで周知した。
(委員) 3点報告があるが、まず豊殿自治連の懇談会のなかで林之郷自治会では今回の台風で菅平ダム放流にあたり、避難指示が急だったため、避難準備及び近隣に相談する時間もなくて困ったという意見があり、早めに指示を出すよう市に要望を出した。それに対して菅平ダムは県の管轄のため、市から県に連絡するとの回答を得た。2点目ですが、市からの防災連絡が今まで電話連絡だったが、今回の台風をふまえて、今年から正副自治会長・会計の三役に防災メールが送付されるようになったので、自治会・消防団と連携が取れるよう処理できるとよい。また、3点目は、自主防災組織が自治会にあるが、現時点では機能していない。今後は消防団と自主防災組織を強化して自助が可能になるよう自治連でも動いている。
(委員) 地域の情報が消防団に届かないことについては、かつて消防団に所属していたことがあり、自分も感じたことだ。ついては、現時点での消防団・自主防災組織の連携について知りたい。また、消防団が困っていることも聞かせてもらえれば、神科・豊殿地域協議会の防災テーマの中のひとつの課題として議論できる。
(12分団) 神科地域では自主防災組織のある自治会は2・3ある。自治会・自主防災組織とのつながりはあるが、12分団として自主防災組織と共に防災訓練は行ったことがない。今回、皆さんの話しをお聞きして連携をとった方がいいと思った。また、要望については、少子化の影響もあり消防団員が不足しているので、お力添えをいただきたい。日中の火事も働き方の多様化のため、出動できる人数に限られる。団員募集は随時行っているが、コロナの影響もあり勧誘活動も出来ない。自治会長さんに御協力いただいている自治会もあるが、市として入団するシステムがあれば良いと感じる。
(13分団) 豊殿地域は全ての自治会に自主防災組織は存在しているが、本来、自治会内で起きた

火事は消火班が初期消火を行い、災害等発生した場合は避難誘導を、また救護班による救護活動、炊出班による食糧確保等をお願いしたいところではあるが、うまく機能していないのが現実。そのような状況を打破するために私達は自主防災組織の説明会を各自治会で実施している。しかし、豊殿は上田市の中で人口減少が最も多い地域であるため、消防団の確保が大変困難な状況であり、消防団活動も難しい。本当は自主防災組織で避難誘導は行って、消防団は緊急を要する場所に巡回出来ると良い。については、消防団としても自主防災組織を強化し消防団に協力してくれる方が入団するよう願っている。

(委員) 今回の台風で上田市が佐久・千曲市のように被害が大きかったら消防団員が少なくても対応しきれない。やはり消防団・自治会そして民生委員各々の役割を明確にすべきである。また、民生委員が頼みこんでも住民が避難してくれないということも聞いている。自治会の自主防災組織で要援護者の方をどのように避難させたらよいか、避難訓練を実施していくと住民の意識も変わってくる。消防団も少人数なので住民同士の支え合いも必要になる。

(委員) 各分団は何人くらい台風の際に出動できたのか。

(12 分団) 通常は五中近隣の詰所に集合し、被害状況が大きい場合は直接現場に集合する。団員 60~70 名が活動を行った。

(13 分団) 定員 100 名だが、現在登録団員数 86 名。そのうち台風で出動した人数は 40 名前後。

(委員) 豊殿地域は要支援の方がどのお宅にいらっしゃるかわかる支援マップがある。また、自治会長・民生委員も要援護者を把握しているが、そこら辺が消防団と情報共有・連携が出来れば活動できる人数も増えると思う。やはり自治会の自主防災訓練は必要だと考える。

(委員) 自主防災訓練の話が出たが、最大の問題は指揮命令が全く異なること。消防団は団長命令、自主防災組織は自治会長命令。神科地域の事例ですが、以前行方不明者が出た際に 12 分団に出動し自治会館を使用してもらった。自治会で自主防災があるのに自治会長に捜査協力依頼もない。消防団も広報活動しか出来ない。極論を言うと火災現場に行っても怪我を負っても自主防災は保証がない。消防団員は災害保険がある。だから、自主防災が火災現場に行っても後方で応援しか出来ない状況なので、何か根本を変えた方がいい。消防団不足の問題は以前自治連懇談会で該当年齢にあたる上田市職員は消防団に入団するよう市長に要望したが、現時点で 12 分団は地域に市職員がたくさんいるにも関わらず、2 人しか入団していない。自治会で動いても難しい問題があるので従業員がたくさんいる企業に入団を依頼する等、大変だがうまく勧誘してほしい。

(中村会長) 各々の連携が出来ていない点については皆で検討していく課題であると思われる。

(13 分団長) 豊殿地域では各自治会の自主防災組織を活性化するため、自主防災組織のメンバーを集めて説明会を実施し組織の必要性について話しをしている。そこで、自治会によっては民生委員さんが参加されている自治会もある。そのなかで要援護者の情報について知りたいと依頼したが、個人情報のため出せないとの答えであった。台風の際に下郷・林之郷の避難誘導を行ったが、その情報が得ることが出来れば各自治会が避難誘導を行い、消防団は要援護者宅にピンポイントで行ける。要援護者の情報を教えてもらうことは可能か。

(委員) 上田市から自治会長に要支援者の情報がきていて民生委員と情報共有している。作成していない自治会もあるが、各自治会に支援マップというものがある。公表可能の承認を得ている援護者宅を地図上に載せて、災害時には要援護者を係が助けに行くシステムになっている。承認を得ているので、マップを共有し情報を共有してもいいと思うが。

→情報を公表することに賛否両論あり。今後の検討課題となった。

(委員) 民生委員を以前務めていたが、要援護者の皆さん全員が命の方が大事だから公表可と承認いただき自治会各班のマップは要援護者がいるお宅は網掛けで表示されている。他の自治会も同様だと思っていた。助けてもらいたい思いのマップなので、社協・福祉課等関係課に検討していただき、消防団の方にも是非共有してもらいたい思いはある。

(委員) 自分の自治会では民生委員さんの情報は個人情報だけでなく、年齢・性別でさえ情報いただくことが出来ない。各自治会・民生委員の活動も 1 本化されていないので、自治会内で

も情報共有が困難である。やはり社協・福祉課等関係課に検討いただき動いていただくしかない。もちろん消防団独自で情報収集しようとしても無理がある。問題が多々あり、今後検討課題である。

(中村会長) 神科・豊殿地域各 16 自治会がありますが、各々異なるようなので、各自治会に確認をとっていただき課題を解決していきたい。

(事務局) 参考資料として信州民報に掲載されていた南部地区自治連の避難運営図上訓練の様子と小泉自治会・川西自治連で発行した防災ハンドブックの写しをお手元に置きました。前回、今回と話を聴いたなかで、お手元のアンケートに記入いただき、今後の協議会を運営するにあたりどこに焦点をあてて協議していけばよいか皆さんに諮っていきたい。

(3) その他 特になし

4 その他

(1) 前回配布した五中の建設アンケートの提出について

(2) 次回の会議日程 日時：1月25日(月)午後7:00から多目的ホールにて

5 閉会 (青木副会長)

